

「日本語 Can-do リスト」を使用される先生へ

【実施概要】

1 日本語 Can-do リストとは

「日本語 Can-do リスト（以下、日本語 Can-do）」とは、生徒が日本語を使ってできることを「～できる」という形式で、日本語の習熟度別に記述したリストです。「みんなの Can-do サイト」（国際交流基金）で公開されている Can-do データベースの中から、高校生の日常生活に関連のあるテーマを抜粋して、作成されています。四つのレベル（表1）と三つの言語活動の分類（表2）から構成され、48の Can-do からなります。

表1 日本語Can-do のレベル

レベル	言語活動（プレゼンテーション）の例
A1	非常に短い、準備して練習した言葉を読み上げることができる
A2	身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる
B1	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる
B2	事前に用意されたプレゼンテーションをはっきりと行うことができる

「みんなの Can-do サイト」（国際交流基金）を基に作成

表2 言語活動の分類

言語活動の分類	
受容	読む・聞くなどの受容的活動
産出	一人で長く話す、書くなどの産出活動
やりとり	会話やメールのやりとりなどの相互行為活動

「みんなの Can-do サイト」（国際交流基金）を基に作成

2 日本語 Can-do の使用目的

日本語 Can-do は、以下のような目的で使用できます。

- 生徒が、自分自身の日本語力を客観視することができる。
- 生徒が、リストの項目により、求められる力を知り、目標とすることができる。
- 定期的にチェックを行うことで、生徒教員双方が伸びを確認することができる。
- 教員が、生徒の伸びを把握することで、指導計画に生かすことができる。
- データの蓄積により、それぞれの学校において、指導対象の生徒のレベルの目安を作ることが可能になる。

3 生徒への実施手順

① 生徒に実施目的を伝える（調査用紙の表紙と一緒に読む）

自己評価となりますので、日本語Can-do リストを配布するだけでは有効な結果が得られません。必ず実施の目的を伝えた上で、正直に答えるよう伝える必要があります。

② 実施する

- ・テストではありませんので時間制限はありません。学校内で実施する場合は 30 分を目安にするといいでしょう。
- ・設問の意味や回答方法が分からない場合は、適宜説明してください。

③ 自己評価の結果を生徒へフィードバックする

- 生徒のモチベーションアップにつながるようなフィードバックができるといいでしょう。ポイントを絞って、生徒が興味を示すような工夫が必要です。

例) 受容や産出といった言語活動の分類別の自己評価の平均値をグラフ化(見本参照)したり、他の入学生や、過去に実施したことがある場合はその結果と比較して示す。

例) 得意なことや苦手だと思われる記述文をマークして返却する。

- 同様の調査を定期的に行い、結果を比較していくとモチベーションのアップにつながるでしょう。

「みんなの Can-do サイト」(国際交流基金)

<https://www.jfstandard.jp/cando>

みんなの Can-do サイト

ユーザーID ログインしたままにする詳細
パスワード
「みんなの教材サイト」のIDとパスワードでログインできます。忘れた方は[こちら](#)

TOP Can-doとは Can-doを探す サイトの使い方 ユーザー登録

Can-doのデータベース

みんなの Can-do サイト

探す 保存する 編集する 共有する 関連づける

Can-do を使うメリット

 コース運営者	実社会でのコミュニケーションを目標にしたコースが考えられます。
 教師	授業の目標設定ができます。目標に合った評価方法が考えられます。
 学習者	日本語力を自分で評価できます。学習目標を自分で立てられます。

Can-do とは
Can-doの使い方・レベルや種類についての説明は[こちら](#)

Can-do を探す
キーワードやカテゴリーでの検索は[こちら](#)

サイトの使い方
検索の仕方、出力や保存の手順などは[こちら](#)